

第50 回福祉楽市

福祉楽市実行委員会

〒421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組901

助成事業の概要

昭和50年、静岡県中部健康福祉センターの呼びかけにより静岡県中部の障がい者施設、老人介護施設及び静岡市の障がい者施設、老人介護施設が集まり、ご利用者様の作成した授産品（福産品）を購入していただく機会を増やす事を目的として松坂屋静岡店の協力のもと「中部地区社会福祉施設作品展示即売会」と題し開始されました。当初、販売できる場所やお店が少なく障がい者施設のご利用者や老人施設のご利用者が、どんなことをしていて、どんな物を作っているのかを知らない人も多く施設を利用している人が作る縫製品や木工製品、パンやクッキー等の食品を販売した所、とても盛況でした。松坂屋静岡店で行うこともあり毎年、楽しみにしているお客様もいらっしゃいます。また、ご利用者様も開催を楽しみにしており開催中は外出等の計画を立て買い物をしたり松坂屋で食事をする等、ご利用者様の生活を豊かに出来るイベントとなっています。今年は11月15日～17日の3日間開催され16の事業所が参加し3日間で749,440円の売り上げがありました。この売り上げの全ては各施設毎ご利用者様の工賃として反映されています。

事業の成果

障害や障害のある人への理解と関心を深め、社会参加意欲を高めるのを目的にしており差別や偏見をなくし、誰もが尊重し合い支え合う「共生社会」を考えるきっかけにする為に静岡市の障害者

施設に参加を募り多彩な福産品を出品しました。内閣府が2022年に行った障害者に関する世論調査で障害を理由とする差別や偏見が「あると思う」との回答が約9割に上った。2016年に障害者差別解消法が施行され2021年に事業者は合理的配慮を義務付ける改正法が公布、2024年に施行されたが浸透には一層の取り組みが必要だと感じる。障害者の手助けをしたことのないとした人が3割を超え、理由としては困っている障害者を見かける機会がなかったが8割近かった。障害者と接する機会が少ない、もしくは困っていることに気づかない場合があると推測され「共生社会」という考えを「知っている」との回答は約5割で障害者への理解をより深めるには交流の場づくりがさらに求められます。

障害者が関わる福産品の普及は理解促進の一助となると考えます。静岡県においても各団体が福産品の販売会を企画しており、この販売会もその一つです。個性的な色彩やデザインの手工芸品、農作物、プリンやパン、クッキー、乾パン、乾麺等の多種多彩な製品が揃いました。この販売会は3日間において開催され施設関係者は勿論の事、一般のお客様で賑わいました。また、静岡市では「お街」と呼ばれる静岡市の繁華街にある松坂屋で行われるこのイベントは年一度開催され、このイベントに出かけるのを楽しみにしている利用者様や一般のお客様もいらっしゃいます。利用者様の一部ではこのイベントと共に食事もして帰られる人も多くいらっしゃいました。

3日間の売り上げは約75万円にのぼり、この売り上げは材料費や経費を除いた全てを作品を作

成した利用者に還元されます。この売り上げを毎月の工賃として還元し利用者様の元に支給されます。

利用者様のなかにはこの工賃を毎月、楽しみにしており、おやつや日用品、映画を見に行ったりと趣味に使う方もいらっしゃいます。このような機会を増やし売り上げを伸ばすことで少しでも多くの工賃を得られる為、また障害を理解してもらえる機会を増やしていきたいと思います。

■ 成果の広報・公表

このイベント（福祉楽市）の開催が決まってからポスターやチラシを作成しました。そのポスターやチラシを関係機関や参加事業所に配布しました。内容は主催：福祉楽市実行委員会、共催：株式会社大丸松坂屋百貨店松坂屋静岡店、協賛：公益財団法人日本社会福祉弘済会を記載しました。開催期間には静岡新聞社の取材もあり 2 日目の朝刊に掲載されました。記事には障害者の施設が中心に行われるこの展示即売会は、静岡市の 6 法人 16 施設が参加し、約 3, 000 点以上の商品が展示即売されます。各種福祉サービス事業所のご利用者が作った手工芸品等の製品を展示即売することにより、県民の福祉に対する理解と関心を深めるとともに、各種福祉サービス事業所利用者の生きがいを高める事を目的に毎年開催されていると掲載されました。また、公表については各施設の広報誌や株式会社 大丸松坂屋百貨店松坂屋静岡店の広報誌に掲載されます。

■ 今後の展開

福産品については様々な課題も多い。このイベントがスタートした当初は老人の施設も多く参加しておりお年寄りが作った食品や縫製品が陳列しました。しかしながら自主製品を作る手間や職員

不足という理由により作らなくなり参加出来る施設も減ってしまいました。障害者支援施設においても福産品を作る上で課題も多い。売れるものを作らなければならない。製品のクオリティーは年々高くなり、どこの施設においても工夫しながら作品作りに携わっている。一昔前は施設の人が作ったものだから、障害者の人が作ったものだからと言って購入して頂けた時もありましたが現在は製品が良くなければ買ってくれない工夫して魅力がなければ購入してもらえないという現実があります。

今後において各施設毎、売れる製品づくり、魅力のある製品作りをしながら取り組んでいきたいと思っています。また参加施設においても減っている現状があります。社会福祉法人のみならず医療法人や NPO 等の参加についても検討し 55 回 60 回と続けていき障害のある利用者様の工賃を上げ、暮らしを少しでも潤いがもてるように活動していきたいと思っています。

この度は、助成をして頂き無事開催でき良いイベントとなりました。誠にありがとうございました。